

第2回 金沢区福祉保健活動拠点指定管理者選定委員会 会議録	
日 時	令和2年3月25日(水) 15時55分～17時00分
開催場所	金沢区役所6階1号会議室
出席者	選定委員：赤木委員、魚谷委員、山岸委員、山口委員、山中委員 事務局：千田福祉保健センター担当部長、高橋福祉保健課長、 大島高齢・障害支援課長、白井高齢者支援担当係長、 大森介護保険担当係長、柴田事業企画担当係長、 長田事業企画担当職員、北村事業企画担当職員
欠席者	出丸地域包括ケア推進担当係長
開催形態	公開（傍聴者なし） ※面接審査以外の事項については、非公開。
次第	開会 事務局説明 議事 1 審査方法について 2 財務状況について 3 面接審査 4 指定候補者の決定 5 その他 閉会
議事内容	開会 事務局より連絡事項 ・委員5名全員出席につき、金沢区福祉保健活動拠点指定管理者選定委員会運営要綱第7条第3項により、委員会が成立していることを報告。 ・今回の委員会の議事録署名人は、魚谷委員と山口委員長に依頼し、了承された。 ・傍聴人の申し込みはなかったことを報告。 議事 1 審査方法について 第1回選定委員会で確認した内容を再確認した。 ・採点方法 ・審査手順

2 財務状況について

事務局より報告。

報告内容について、赤木委員から補足。

委員：財務状況の審査について、異議なし。

3 面接審査

社会福祉法人横浜市金沢区社会福祉協議会よりプレゼンテーションが行われた。

【質疑応答】

委員：情報発信についてご紹介がありましたが、発信という一方向のことになると思います。情報共有といった、双方向で情報をやり取りするような取り組みなどはありますか。

応募者：情報発信としてホームページでの周知を行っていますが、なかなか成果が見られないのが実情です。

そのため、今年の3月に発行した広報誌では、キャラクターを用いたクイズを取り入れ、解答を感想と共にメール等で送ってもらうという取り組みを行いました。

その結果、様々なご意見をいただくことができ、非常に参考になりましたので、地道な取り組みかもしれませんが、今後もこのような取り組みを通して、やり取りを行っていたらと考えています

委員：プレゼンテーションでは全体的に、主体側としての意識が強いと感じられましたが、連携の要や総合拠点といった、別の側面もあるかと思います。そのような視点で、具体的な取り組みなどはありますか。

応募者：社会福祉協議会の組織そのものが、多数の分野の方にご登録いただき、成り立っている組織です。そのなかで、他の分野間での情報共有や、ある課題について問題提起して、一緒に考えるといった取り組みを行っています。

委員：情報発信について、地域の方や問題を抱えている方が、どのような情報を欲しているのかを、常に把握する必要があります。

	<p>るかと思ひます。そういったニーズを把握するための、具体的な取り組みなどはありますか。</p> <p>応募者：以前は、「地域活動計画」を社会福祉協議会が事務局となつて、地域の方と作成しており、その策定を通して、ニーズ把握を行っていました。</p> <p>現在では、行政と共同事務局として「地域福祉保健計画」の策定を行っており、その策定を通して、ニーズ把握を行っています。</p> <p>また、行政と共同して、区民意識調査も実施しておりますので、5年前に行った結果と比較して、過去からの変化や分析結果を活用しながら、地域に反映させていけたらと考えています。</p> <p>委員：地域ごとの計画はどのように作られているのでしょうか。</p> <p>応募者：地域ごとの計画は、地域の方が主体で作られています。</p> <p>なお、行政・地域ケアプラザ・区社会福祉協議会で、地区ごとに地域支援チームを組織しており、地域の方々とともにチームで連携しながら、計画を作っています。</p> <p>委員：区社会福祉協議会が独自で行っていることはありますか。</p> <p>応募者：地域での細かい会議などがありますので、区社会福祉協議会だけが参加した会議の内容を、各方面に情報共有してたりします。</p> <p>委員：共同事務局となると、住民活動に主体を置く社会福祉協議会の独自性が薄まってしまうと思いますが、何か取組などありますか。</p> <p>応募者：助成金をお出しする事業を行っており、地域で活動したいというお声をいただいた時や、そういった情報を把握できたときには、助成金に繋げることができないかを考えてたりしています。</p>
--	---

	<p>委員：地域担当職員を配置しているとのことですが、各地区社会福祉協議会単位なのでしょうか。また、職員1人あたりどれくらいの地区を担当しているのでしょうか。</p> <p>応募者：各地区社会福祉協議会単位で地域担当職員を置いています。担当地区の数は、職員にもよりますが、3地区から4地区ほどを担当しており、地域性を考慮したり、飛び地にならないよう配置しています。</p> <p>また、地域の方だけでなく、地域ケアプラザとも連携しており、地域の定例会やケアプラザの会議などにも参加し、情報共有を行ったり、ケアプラザとともに地域の支援を行ったりしています。</p> <p>委員：最近、若い人もホームページを見る機会は少ないと思いますが、SNS経由で情報発信するというような取り組みを検討していたりしますか。</p> <p>応募者：検討したいと考えています。若い職員もいるので、情報を見る側の立場として意見を出したりして、取り組んでいけたらと思います。</p> <p>委員：財政面で、過去よりも好転しているようですが、具体的にどんなことを取り組んだのでしょうか。</p> <p>応募者：ご指摘の通り、以前は福祉保健活動拠点の運営や法人の運営が厳しい状況でした。そのため、福祉基金を一部用いて、財政を立て直した経緯があります。その後、同じことがないように、職員が努力して経費削減に取り組んだ結果、年度内の準備金で運営ができるようになりました。また、基金の保有高も好転していますので、拠点を運営する体力はついていると考えております。</p> <p><各委員による採点></p>
--	--

4 指定候補者の決定

事務局より、最低基準点を上回っていることを報告した。

委員会からの推薦に際して、候補法人に対しては以下の意見が付与された。

【応募法人に対して】

- ・フットワークやノウハウがあるところが優れている法人だと思うので、考え方やノウハウを地域に伝えてくれることを期待したい。
- ・情報に関しては、今後の課題がある。複数の手段で情報発信するなど、若手の新たな試みに期待したい。
- ・ボランティアの育成やボランティアの窓口として、優れていると感じた。
- ・個別の活動の連携はできているので、今後は大学等のボランティアセンターを横に繋げるような取り組みができればよいと思う。

5 その他

事務局より今後のスケジュールについて説明した。

【資料 1】

横浜市金沢区福祉保健活動拠点指定管理者選定委員会名簿

【資料 2-1】

評価基準及び審査方法について

【資料 2-2】

前期の指定管理者業務の実績項目の評価方法について

【資料 3】

財務状況評価報告書